

近世の王権と仏教

大桑 齊 著

▶ A5判・340頁／定価：本体6,500円(税別) ISBN978-4-7842-1811-0

2015年6月刊行予定

通説的には、近世という時代は、国家も社会も思想も、宗教世界中世を克服した世俗世界であるとされる。本書は、そのような認識は近代の眼から見たものであるとして、真っ向から異を唱え、幕藩体制そのものが神聖性を帯びていたことを明らかにする。とくに、救済信仰という様相をもつ真宗という存在に着目し、徳川家康による將軍権力の成り立ちから綱吉期までを中心に、近世国家の宗教性を論証し、さらには仏教的世界としての近世を論じた論考を収める。

〇〇予定内容目次〇〇

序 言 一なぜ、近世、王権、仏教、なのか

第一部 將軍権力と仏教

第一章 近世国家の宗教性

- 一 王権論の理論と近世王権
- 二 近世国家形成の諸契機と宗教性
- 三 (民衆的契機) = 神格化と(領主的契機) = 神体化
- 四 神体化と諸契機
- 五 神国思想(対外的契機)と(コスモロジー的契機)
- 六 (コスモロジー的契機) = 異界・死者
- 七 真宗と東照大権現

第二章 徳川將軍権力と宗教一王権神話の創出一

- 一 徳川將軍権力の成り立ちの認識
- 二 家康段階一仏教の囲い込みと総攬
- 三 家光期権力中枢での神話形成
- 四 家光期権力周辺での神話形成
- 五 綱吉期における神話の成立

第三章 綱吉政権における王権と仏教

一増上寺法問をめぐる一

- 一 研究史から
- 二 綱吉政権における正統性の問題
- 三 桂昌院と顕誓祐天と『松平宗開運録』
- 四 増上寺御成法問
- 五 営中法問

第四章 『松平開運録』の諸問題

- 一 『松平宗開運録』の成立と諸本の系譜
- 二 『松平開運録』の構成
- 三 思想的特質
- 補節一 天下弥陀授与説の展開
- 二 若干の教学史的考察
- 写本所在一覧表
- 関連史料

第五章 幕藩権力と真宗一近世真宗の研究状況と視点一

- 一 幕藩権力の真宗観

- 二 真宗の対応
- 三 権力の対応一城下町神聖都市論
- 四 大名の神格化

第二部 仏教思想論

第一章 戦国思想史論

- 一 仏教土着論
- 二 神仏関係論
- 三 救済論
- 四 国家論
- 五 思想の共通基盤

第二章 仏教的世界としての近世

- 一 研究史から
- 二 (心の思想)としての(住み着)き
- 三 天道思想と儒教に(住み着)いた仏教
- 四 仮名草子の仏教
- 五 近世仏教の思想的生産力一むすびにかえて

第三章 近世国家の宗教編成とキリシタン排撃

- 一 排耶論の展開
- 二 宗教編成論
- 三 ハビアン/雪窓
- 四 神格化/王権神話と体制神聖化/社会的合意調達と仏教治国論/東アジア心学世界の形成/編成と排除

第四章 東アジア近世世界の思想的成立

- 一 東アジア近世国家のネット
- 二 神聖国家としての明・朝鮮/日本の後進性/徳川神聖国家の形成
- 三 (心学)世界としての東アジア世界の形成
- 四 (心学)としての儒教の展開/日本の仏教復興運動と(心学)/日本近世民衆思想と(心学)
- 五 東アジア世界の変動と解体の始まり
- 六 南蛮と神国・仏国/明清交替とエスノセントリズム

あとがき/索引

おおくわ・ひとし…1937年生。大谷大学大学院文学研究科博士課程満期退学。博士(文学)。大谷大学教授を経て、現在、大谷大学名誉教授。著書に『民衆仏教思想史論』(ペリカン社)『日本近世の思想と仏教』『戦国期宗教思想史と蓮如』(以上法藏館)など

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	近世の王権と仏教		本体6,500円(税別) ISBN978-4-7842-1811-0	
お名前		tel			書店番線印
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい)				
	<input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				

本書HPのQRコード

書店番線印

徳川社会と日本の近代化

登谷和比古編

19世紀のアジアにおいて、日本が独立を堅持し近代化を達成しえた理由は、欧米列強に互しうるだけの力を蓄えていた徳川日本の文明史的力量に着目せざるをえないであろう。徳川社会はどのような力powerを、いかにして形成しえたのか、多分野の研究者の書き下ろし論文25本により総合的に究明する。

▶A5判・730頁／本体9,800円(税別) ISBN978-4-7842-1800-4

※幕藩権力と寺院・門跡

柳田善雄著

思文閣史学叢書

宗派・教団単位に考察されてきた従来の研究に対し、中世寺社勢力の中心であった顕密系寺院の近世的あり方を分析することによって、江戸幕府の寺院行政の展開をより明瞭に解明。さらに、旧社権門の頂上に位置した門跡を分析対象とし、近世における門跡制の特質を明らかにする。

▶A5判・320頁／本体7,200円(税別) ISBN4-7842-1166-7

国家と宗教 日本思想史論集

源了圓・玉懸博之編

国家というものの存在と、それを内から浄化し批判する重要な契機としての宗教—「国家と宗教」という問題に思想的見地から取り組む論文集。【内容】護国と清浄／徳川期の職分論の特質／近世初期の儒教と「礼」／近世初期における「国家」と「仏法」／禁じられた信仰／通俗道徳と「神国」「日本」／近世大嘗祭の展開 など

▶A5判・530頁／本体12,000円(税別) ISBN4-7842-0702-3

蓮如上人研究

蓮如上人研究会編

根本義など教学上の問題にとどまらず、北陸・近江・四国や中国地方などの各地のつながり。伝記、民俗からみた蓮如上人、更には真宗寺院建築の特色や上人の作庭など、幅広いテーマを扱って読み易く書かれており、蓮如上人の真実の姿を伝える有意義な書となっている。

▶A5判・492頁／本体10,000円(税別) ISBN4-7842-0961-1

周縁文化と身分制

脇田晴子・マーチン・コルカット・平雅行編

各時代に存在する差別的構造的な特質を明らかにすることは、その時代の社会全体のあり方を解明することに連なる、との観点から、方法を異にする日米の気鋭の研究者の討論を踏まえた成果12篇。周縁部分をテーマにすることにより、新たな近現代社会像を多面的浮き彫りにする。

▶A5判・350頁／本体5,500円(税別) ISBN4-7842-1231-0

日本中世の地域社会と仏教

湯之上隆著

写経や法会、開板事業、偽文書など様々な事象を通して、個人や集団の宗教行為がいかなる社会性を持ったのか、中世の地域社会における、仏教と社会との関係性を明らかにする。静岡県を中心とした地域の寺社文書の詳細紹介、紀行文から見る地域社会など、「宗教」と「地域社会」をキーワードとして古代から近代までの社会を概観する論集。

▶A5判・384頁／本体8,000円(税別) ISBN978-4-7842-1773-1

幕藩制国家の成立と対外関係

加藤榮一著

思文閣史学叢書

幕藩権力がどのような国際的環境のもとに国家支配の枠組を形成したのかを、「公儀」幕藩権力と連合オランダ東インド会社との関係史を基軸に、国際秩序の変動や東アジアおよびヨーロッパ社会の変革の過程の中に捉えなおした意欲作。

▶A5判・468頁／本体8,800円(税別) ISBN4-7842-0954-9

在京大名細川京兆家の政治史的研究

浜口誠至著

戦国期に室町幕府の政策決定に参画した大名を「在京大名」と規定し、その中でも代表的な存在である細川京兆家の政治的位置を明らかにすることで、戦国期幕府政治の構造的な特質を解明する。幕府儀礼・奉行人奉書による裁許の補完と幕政代行等を検討し、制度市中心の幕府政治史を相対化する試み。

▶A5判・320頁／本体6,500円(税別) ISBN978-4-7842-1732-8

天下人の神格化と天皇

野村玄著

豊臣秀吉や徳川家康の神格化が、なぜ近世前期の政治過程において要請され、それらはどのように実現したのかを解明し、そこでの天皇・朝廷の行動と意味を再検討するとともに、その後の徳川將軍家が天下人の神格や天皇・朝廷といかに向き合ったのかを、綱吉期までを視野に入れ叙述する。

▶A5判・384頁／本体7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1781-6

※日本近世の宗教と社会

菅野洋介著

奥州と関東を主に、戦国期以降の仏教・神道・修験道・陰陽道などと地域社会とのかかわりを、東照宮や寛永寺を中心とした幕府権威をも視野にいれて考察。本所権威の在地社会への浸透、在地社会における諸宗教の共存と対抗、民衆宗教の展開とそれを規定する社会情勢、そして在地寺院など宗教施設の「場」としてのあり方を追求する。

▶A5判・380頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1572-0

日本の社会と真宗

千葉乗隆編

【内容】本能寺の能楽／日野有範墓伝承地の調査／蓮如の王法と佛法／富田光照寺と本過寺に関する再論／中世真宗の歴史叙述と神話／真宗興正派光教寺の歴史／大津曳山祭礼考／寛政期の東本願寺再建と能登／新出・文化七年専称寺西方寺勝龍寺巡錫記の紹介／琉球の真宗信者と西本願寺／真宗寺院と門徒と村／仏教日曜学校史序説 ほか

▶A5判・285頁／本体6,500円(税別) ISBN4-7842-1009-1

中世文化と浄土真宗

今井雅晴先生古稀記念論文編集委員会編

常に日本中世宗教史研究を先導してきた、筑波大学名誉教授・今井雅晴先生の古稀を記念して、国内のみならず海外にもおよぶ幅広い層の研究者が、親鸞と浄土真宗史研究の進展を期した最新研究28本を寄せた大冊。

▶A5判・654頁／本体13,000円(税別) ISBN978-4-7842-1636-9

※近世日本釈奠の研究

須藤敏夫著

釈奠(せきてん)とは、孔子をはじめとする儒教の先哲を先聖・先師として祭る祭儀、近世においては林家聖堂や藩校において行われた学芸奨励の重要行事であった。幕府および諸藩における実態を詳細に調べ、釈奠儀礼の盛衰を明かす。近世教育史および儒学・思想史研究の空白を埋める、釈奠研究の第一人者による他に類書のない初の体系的研究。

▶A5判・340頁／本体8,000円(税別) ISBN4-7842-1070-9

日本中世の社会と寺社

細川涼一著

律宗・律僧が中世社会で果たした役割を中心に、女性や被差別民など、歴史の主流からこぼれ落ちがちなものたちへ常にまなざしを注ぎ、境界領域から歴史を問い続けてきた著者の主要な研究成果を一書にまとめる。

▶A5判・452頁／本体7,700円(税別) ISBN978-4-7842-1670-3

近世の禁裏と都市空間

岸泰子著

禁裏が関係する信仰や儀礼の場・空間の特性に注目し、都市を基盤として存在した禁裏、禁裏によって形成・維持された都市、という両側面からなる近世京都の特性を中世・近代への展開も視野に入れて明らかにする。都市・建築史的観点から近世の天皇・王権のありかたにも注目し、天皇が表出する場の特性や天皇と民衆の関係性などにも言及。

▶A5判・320頁／本体6,400円(税別) ISBN978-4-7842-1740-3

室町幕府の東国政策

杉山一弥著

室町幕府の東国政策という視点から室町期東国社会をとらえ直し、その焦点を平時・戦時それぞれの東国の儀礼と秩序、東国における足利氏一族庶子の存在意義、室町幕府・鎌倉府の境界領域ならびに政治・経済的に競合する地域社会における諸階層の動向にあわせて再検討する。

▶A5判・388頁／本体7,200円(税別) ISBN978-4-7842-1739-7

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。